

植林に行こう！ ～カストゥボン植林ツアー～

森林の回復による先住民族の自立を支援する PFP、ノララ町バンカル村・ラムフゴン村・エルクダ村の住民（チボリ民族約 80%、マノボ・ピラーン民族約 20%）、そして日本から HANDS の会員が参加して、一緒に植林を行うことになりました。（ツアー日程は別紙参照）



コゴン草に覆われた山を眺める
(バンカル村郊外植林予定地)

PFP スタッフによるセミナーを繰り返し、住民は森林の重要性とその成育に時間がかかることを理解しています。マホガニーなど材木として換金できる樹木、マンゴー・パパイヤなど家庭で食べられる果樹、一定の間隔をあけて土壌流出を防ぐジェミリーナを植えていきます。

ツアーの下見のため訪れた山中の村々では、大勢の子どもたちが迎えてくれました。学校が遠く現金収入が少ないため、ほとんどの子どもは学校へ行っていません。親たちは、収穫量の少ないわずかな畑のほかは、ジェミリーナやイピルイピルの炭焼き、ココヤシから作るほうき（1本5ペソ=10円）、竹から作るバーベキューの串（100本2ペソ=4円）などで稼いでいます。15km 離れた町のマーケットに毎日曜日販売に行きますが、5km 歩いてから 15ペソ (=30円) 払ってトライシクルに乗ります。町に行くにもお金が必要なのです。

右の写真のように、苗木はすでに購入し雨期を待っているところです。雄大なロハス山脈でカストゥボン（チボリ語。意味は work together = 一緒に働く）しませんか！

<植林カンパのお願い>

森の修復は地球環境のみならず山岳部先住民族の経済的自立にとって不可欠です。今年は3地域でアグロフォレストリを実施します。うち YOKE（横浜市国際交流協会）補助金事業は自己資金約 40 万円を用意する必要があり、各種イベント会場でのカンパを1年間お願いする予定です。郵便振込でのご寄附も歓迎です。その場合は「植林」とお書き添えください。



購入した苗木は、ココナツの葉で強い日差しから守る（ラムフゴン村）

モスン教育プロジェクト経過報告



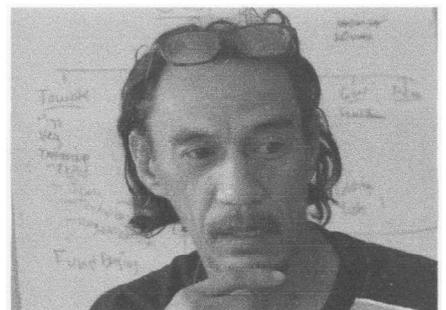
グレートワーク事務所にて（左から執筆者のマーセラ、エマと相田）

モスン教育教科書プロジェクトも2年目に入ります。1年目の成果をモニターするため、教科書を制作しているグレートワーク（編集責

任者レックス氏が主宰する NGO) の事務所を訪問しました。当日は教科書執筆者のマーセラさん、エマさん、イラストレーターのアレックスさんが集まり、先住民の子どもに理解しやすく、コミュニティーの自立につながる教科書の執筆過程とその困難さについてお話いただきました。特にチボリ民族のマーセラさん、チボリではないが長くチボリの教育にかかわったエマさんは、英語やタガログ語の概念を子どもたちにわかりやすいチボリ語に翻訳する作業に苦勞なさっているようです。アレックス

さんは、イラストが理解の助けになるよう細心の注意を払っているとのことでした。

皆さんの努力が早く形になるよう支援を続けていきたいと思えます。



イラストについて語るアレックス